

私立幼稚園関係者 各位

**幼保一体化 “こども園構想” に対する
幼稚園情報センターの考え方と提案 VER. 6
《年齢区分・保幼連結化の議論をはじめよう》**

民主党政権は“こども園法案”の年内成立、2013年度施行をめざし国会提出の準備に入りました。不穏な政局の中で成否は見通しが立ちませんが、この問題に対する幼稚園情報センターの考え方および提案は次のとおりです。

(1) 幼保一体化・新システムの意義について。

幼保一体化・新システムによって、下記のような状況が生まれると考えるなら意義があります。

- ①幼稚園・保育所間の財政格差が解消され、幼稚園で預かり保育を受けている子ども達が、保育所の子ども達とバランスのとれた公平な財政支援を受けられるようになる。
- ②母親が外に働きに出ている、子どもは幼稚園に通わせたいと願っている親にとって、幼稚園が利用しやすい形になる。
- ③これまで保育所しか知らなかった人達が幼稚園教育の実際に接し、親子関係、家庭教育を見直すきっかけになる。
- ④同じ地域に住む同じ年齢の子どもが、家庭の事情や親の考え方で一方は幼稚園、一方は保育所に通うという問題が解決でき、人々の心の中にわだかまっている幼保制度のわかりづらさや人間関係の溝が解消できる。
- ⑤幼児教育・保育の制度がわかりやすくなり、職業としての将来性を感じて教諭・保育士をめざす若い人材が増えてくる。

(2) すべてを「こども園」に統一するのは反対です。

- ①しかし幼稚園、保育所を廃止し、すべて「こども園」と名称統一することには反対です。「名は体を表す」「名前が歴史と伝統を育む」と言われるように名称には大きな意味があります。「幼稚園」という言葉に人々はさまざまな思い出を刻み、それが健全な親子関係を守り、子育ての喜びを育んできました。名称の消滅は記憶の連鎖を消すだけでなく、子育ての良き伝統をも消滅させてしまうと心配されるからです。
- ②2011年1月24日に示された政府方針案は、幼稚園の制度は当面存続(0~2歳の保育所も存続)させた上で、まずは新たなこども園制度に大半の保育所を組み込み、それから幼稚園を財政制裁で切り崩して、遠からずこども園に統一していく路線です。幼稚園の名称はほぼ消滅することを想定しています。
- ③何も幼稚園、保育所の名を消さなくても、現行の認定こども園制度を柔軟に拡充していけば“幼保一体化”の実は十分に得られます。
- ④政権交代をアピールするために幼稚園、保育所の名称を消そうとするのは政権の横暴で

あり民主国家を冒瀆するものと言わざるをえません。

(3) 「0～2歳は保育所」「3～5歳は幼稚園」の年齢区分連結化を提案します。

- ①ただ、現行制度のままでは、人々が感じている“わかりにくさ”を解消できません。そこで新システムが持つ(1)の意義を生かした上で、もっとわかりやすく、馴染みやすく、そのうえ幼稚園、保育所の伝統と実績をさらに発展させていく道を考えるならば、「0～2歳は保育所、3～5歳は幼稚園」の年齢区分・保幼連結化がベストであると考えます。これは幼稚園情報センターのオリジナル構想ではありません。多くの幼稚園関係者が30年以上前から願っている理想の姿です。
- ②もともと幼稚園は3～5歳を対象にしてきた施設です。この層の園児が増えても施設改修、備品整備、人員配置に多くのコストを必要としません。また保育所は0～2歳の養育に長い実績があり得意分野だと言えます。保育所待機児の多い地域は、3～5歳児が幼稚園に移行すれば0～2歳児の受け入れ枠が広がり、待機児問題を改善することができます。そしてより落ち着いた生活環境の中で乳児の保育ができるようになります。
- ③現行の0～5歳の保育所も、0～2歳を保育所、3～5歳を幼稚園とする一体施設にすれば良いのです。そうすれば認定こども園もこども園もあえてつくる必要はなく、すべての子どもが幼稚園教育から小学校教育に進むことができます。
- ④新たな改革構想に反対や否定的意見ばかり言っていたのでは、自分たちの権益を守っているだけと見られ、多くの国民の支持は得られません。みずから改革の道を探っていく努力が大事です。「政府の案より、こっちの方がもっとわかりやすく、中身も良い」という建設的対案を提起し、新たな議論を巻き起こしていこうではありませんか。

(4) 多様性と一律性について。

全日本私立幼稚園連合会は「現代は多様な選択肢が肝要。現行制度にはそれがある。多様性を奪う改革は本末転倒だ」と主張しています。その点では、政府の「こども園構想」も当方の「年齢区分・連結化構想」も一律的と言えます。

しかし今の日本社会は、制度の一律性で中身の多様性まで制約されることはありません。同じ私立幼稚園といっても百花繚乱、同じ保育所でも千差万別なのが実情です。

逆に制度の多様性は、親を惑わせ、若い人材を躊躇させ、小学校教育を悩ますことにも通じます。多様性の中で幼稚園の存在感が埋没することも心配です。

これまで育んできた幼稚園教育を守り発展させていくためにも、新たな、そして抜本的な改革の道を模索し主張していくことがもっとも重要であると考えています。

2011年3月 幼稚園情報センター代表 片岡 進

CONSULTING, LECTURING, WEB MAGAZINE PUBLICATION

幼稚園のドラマとロマン 『月刊・私立幼稚園』

<http://www.yochien-joho.com/>

262-0033 千葉市花見川区幕張本郷 4-13-5 電子メール=info@yochien-joho.com

☎(声メール):043-272-3701 FAX(紙メール):043-273-2716

『月刊・私立幼稚園』 『編集長の放浪日誌』 『今月の幼稚園』 『幼稚園ママ&パパ』